

科目名	放射線と健康支援			ナンバリング	INE461	授業形態	講義
対象学年	3 年	開講時期	後期後半	科目分類	必修	単位数	1 単位
代表教員	佐藤龍昌	担当教員					

授業の概要	既に1年次で学んだ「放射線と環境」および2年次で学んだ「放射線と人体」に基づいて、本学が置かれている地域的特性を考慮した健康支援を学ぶ。まず、放射線と健康支援にかかわる医療、特に、看護ケア上の基本事項を学び、過去の原子力発電所事故(チェルノブイリ)や放射線被ばく(広島・長崎原爆、第五福竜丸事件など)後の健康被害とその支援、福島第一原子力発電所事故後の健康支援を事例として取り上げ、今後の放射線と健康支援のあり方について考察する。						
到達目標	1、医療現場における放射線診断・治療法について説明できる。2、過去の大量放射線被ばくの健康被害と健康被害について説明できる。3、学校教育における放射線と健康支援について説明できる。4、市民教育における放射線と健康支援について説明できる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	1、2年次に学んだ「放射線と環境」「放射線と人体」の理解が重要です、必ず復習して講義に臨んでください。講義では時間の制約上極めて基本的な事項の説明にとどま るが各自の日々の学習よりさらに理解を深めてほしい。講義で使用するスライド、資料等はmanaba@IMUIにて開示する。						
ディプロマポリシーとの 関連	【看護学部看護学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 広い視野と豊かな教養に基づき、看護の担い手としてふさわしいヒューマニズムと倫理観を身につけている。					
		2. EBN(Evidence Based Nursing: 根拠に基づいた看護)に基づき、自律的に看護を実践することができる。					
	○	3. 生命の尊厳と人権を尊重する姿勢を身につけ、多職種と連携・協働することができる。					
		4. 地域の健康課題に関するニーズをとらえ、災害時の援助活動も含め、積極的に地域貢献できる能力と態度を身につけている。					
	○	5. 看護専門職として科学と看護の進展に対応するために、生涯にわたって持続可能な主体的学修ができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1、医療現場における放射線診断・治療法について説明できる。2、過去の大量放射線被ばくの健康被害と健康被害について説明できる。3、学校教育における放射線と健康支援について説明できる。4、市民教育における放射線と健康支援について説明できる。	1、医療現場における放射線診断・治療法についてわかりやすく説明できる。2、過去の大量放射線被ばくの健康被害と健康被害についてわかりやすく説明できる。3、学校教育における放射線と健康支援についてわかりやすく説明できる。4、市民教育における放射線と健康支援についてわかりやすく説明できる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)	○	○					100%
小テスト・授業内レポート							
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加	○	○	○				

課題、評価のフィードバック	期末試験(多肢選択方式の客観試験)100点満点で評価する。
---------------	--------------------------------------

授業計画	回次	テーマ	授業内容	備考
	第1回	医療と放射線①	医療における放射線を利用した診断方法とその安全管理、防御法について概説できる。	
	第2回	医療と放射線②	医療における放射線を利用した治療法とその効果・有事政事象について概説できる。	
	第3回	大量放射線被ばく事故の健康被害と健康被害①	チェルノブイリ原子力発電所事故の健康被害と健康支援について概説できる。	
	第4回	大量放射線被ばく事故の健康被害と健康被害②	大量放射線被ばくと健康支援について(広島・長崎原爆)	
	第5回	大量放射線被ばく事故の健康被害と健康被害③	福島第一原子力発電所事故と健康支援の現状	
	第6回	放射線と健康支援①	学校教育における放射線と健康支援について概説できる。	
	第7回	放射線と健康支援②	市民教育における放射線と健康支援について概説できる。	
	第8回	試験		
	第9回			
	第10回			
	第11回			
	第12回			
	第13回			
	第14回			
	第15回			
	試験	試験を実施する。		
授業の進め方		講義と質疑応答とする。		
授業外学習の指示		シラバスに記載されている次回の授業内容、到達目標を確認し教科書、資料等を用いて事前学習を行い授業に臨むこと。事前学習時間は最低30分を要する。授業終了後はレポート課題にて積極的に自己学修を行い知識と理解の定着に努めること。 (授業外学習時間: 毎週 60 分)		

教科書	
参考書	1、2年次に学んだ「放射線と環境」「放射線と人体」の資料等
参考URLなど	
その他	